

同席触廻状写〔將軍不例ニ付御機嫌伺出仕日割〕 八 包紙一 一通か 三
 諏訪・戸沢家留守居 真田・秋田外四家留守居宛 八月二日

同席用廻状写〔山王社祈禱の件〕 田口周助・渡辺平兵衛外一名 上田満・加納元右衛門外一〇名宛 八 包紙一 一通か 三
 八月二日

同席用廻状写〔帝鑑問席大名の城中坊主部屋定式借用の件〕 諏訪・柳沢外二家留守居 牧野・真田外七 包紙一 一通か 三
 家留守居宛 八月二三日

同席用廻状写〔坊主部屋定式借用の件〕 同前 戸沢・戸田外二家留守居宛 八月一日 包紙一 一通か 三

同席触廻状写〔松平彈正忠若年寄任命の旨〕 諏訪・本多家留守居 真田・西尾外二家留守居宛 八月一日 包紙一 一通か 三
 九日

同席触廻状写〔將軍不例御機嫌伺出仕日割〕 戸沢・諏訪家留守居 真田・西尾外一家留守居宛 八月一日 包紙一 一通か 三
 九日

同席用廻状写〔征長留守中の機嫌伺出仕の件〕 諏訪・柳沢外二家留守居 堀田・戸田外六家留守居宛 八月二日 包紙一 一通か 三

同席触急廻状写〔將軍不例により惣出仕の旨〕 諏訪・戸沢家留守居 真田・西尾外一家留守居宛 八月二五日 包紙一 一通か 三

同席触急廻状写〔將軍死去、一橋中納言相統の旨等、老中御書付七通分写〕 同前 真田・西尾外一家留守居宛 八月二六日 包紙一 一通か 三

同席用廻状写〔一橋中納言相統ニ付機嫌伺の件〕 同前 真田・西尾外二家留守居宛 八月二六日 包紙一 一通か 三

同席用廻状写〔將軍死去後の殿中作法申合、他席大名と面会致すまじき旨〕 諏訪・柳沢家留守居 真田・内藤外一家留守居宛 八月二六日 包紙一 一通か 三

同席触廻状写〔前將軍家茂遺骸増上寺へ葬送の旨〕 諏訪・戸沢家留守居 真田・西尾外二家留守居宛 八月二八日 包紙一 一通か 三

同席用廻状写〔供進省略の件〕 諏訪・柳沢家留守居 真田・西尾外一家留守居宛 八月二八日 包紙一 一通か 三

同席触急廻状写〔前將軍靈棺出迎方〕 諏訪・戸沢家留守居 真田・西尾外二家留守居宛 八月二九日 包紙一 一通か 三

同席触廻状写〔中陰なれど銃隊訓練は再開すべき旨〕 同前 真田・秋田外六家留守居宛 八月二九日 包紙一 一通か 三

同席触廻状写〔靈棺出迎時装束方〕 諏訪・本多家留守居 真田・内藤外二家留守居宛 九月二日 包紙一 一通か 三

同席触廻状写〔前將軍遺骸發城日限〕 諏訪・戸沢家留守居 真田・秋田外四家留守居宛 九月三日 包紙一 一通か 三

同席触廻状写〔花山院前右府死去ニ付鳴物停止の旨〕 同前 真田・西尾外二家留守居宛 九月四日 包紙一 一通か 三

同席触急廻状写〔御機嫌伺のため明日惣出仕の旨〕 同前 真田・西尾外一家留守居宛 九月六日 包紙一 一通か 三

同席触廻状写〔御機嫌伺献上方〕 同前 真田・秋田外四家留守居宛 九月八日 包紙一 一通か 三

同席触廻状写〔和宮らへの御機嫌伺献上方〕 同前 真田・西尾外二家留守居宛 九月九日 包紙一 一通か 三

同席用廻状写〔代替誓詞ニ付願書提出方〕 諏訪・柳沢家留守居 真田・秋田外三家留守居宛 九月一日 包紙一 一通か 三

同席触廻状写〔御機嫌伺出仕日割〕 諏訪・戸沢留守居 真田・西尾外二家留守居宛 九月一日 包紙一 一通か 三

同席触廻状写〔前將軍出棺、葬送規定等老中御書付三通分写〕 同前 同前宛 九月一日 包紙一 一通か 三

同席触廻状写〔前將軍葬送規定〕 諏訪・堀田家留守居 真田・内藤家留守居宛 九月二二日 包紙一 一通か 罌

同席触廻状写〔前將軍法事執行方、使者裝束・通路・供連・日割等〕 相馬・堀田外四家留守居 真田・内藤外二家留守居宛 九月二二日 包紙一 一通か 罌

同席触廻状写〔前將軍出棺刻限変更の旨〕 本多・諏訪家留守居 真田・内藤外二家留守居宛 九月二二日 包紙一 一通か 罌

同席触廻状写〔増上寺法事日割〕 堀田・諏訪家留守居 真田・土岐外三家留守居宛 九月二五日 包紙一 一通か 罌

同席触廻状写〔和宮への献上方〕 諏訪・戸沢家留守居 真田・西尾外二家留守居宛 一〇月一日 包紙一 一通か 罌

同席用廻状写〔御藤中機嫌伺使者派遣方〕 諏訪家留守居 真田・内藤外一家留守居宛 一〇月一日 包紙一 一通か 罌

同席触廻状写〔松平縫殿頭上京の節、諸家よりの使者無用の旨〕 戸沢・諏訪家留守居 真田・西尾外二家留守居宛 一〇月八日 包紙一 一通か 罌

同席触廻状写〔將軍への献上方〕 同前 真田・内藤外一家留守居宛 一〇月八日 包紙一 一通か 罌

同席触廻状写〔法事終了ニ付増上寺下乗下馬所もとの通りの旨〕 諏訪・本多家留守居 真田・内藤外一家留守居宛 一〇月二二日 包紙一 一通か 罌

同席触廻状写〔中陰明ニ付惣出仕の旨〕 諏訪・戸沢家留守居 同前宛 一〇月一三日 包紙一 一通か 罌

同席触急廻状写〔明日四ツ時惣出仕の旨〕 同前 真田・西尾外一家留守居宛 一〇月一八日 包紙一 一通か 罌

同席触廻状写〔増上寺参詣日割〕 同前 同前宛 一〇月一九日 包紙一 一通か 罌

同席触廻状写〔和宮院号の儀ニ付、先に交付せし書付に誤りあるにより返却すべき旨〕 同前 真田・秋田外三家留守居宛 一〇月二〇日 包紙一 一通か 罌

同席触廻状写〔和宮院号は静寛院の旨〕 同前 同前宛 一〇月二〇日 包紙一 一通か 罌

同席触廻状写〔武器類開所通行のための印鑑提出方〕 戸沢・柳沢家留守居 同前宛 一〇月二二日 包紙一 一通か 罌

同席触廻状写〔徳川慶喜相統并除服宣下参内ニ付祝儀惣出仕の旨〕 諏訪・戸沢家留守居 真田・内藤外一家留守居宛 一〇月二三日 包紙一 一通か 罌

同席用廻状写〔代替御礼登城方〕 諏訪家留守居 戸田・真田外六家留守居宛 一〇月二五日 包紙一 一通か 罌

同席触廻状写〔代替御礼登城の節、供廻り規定〕 戸沢・諏訪家留守居 真田・秋田外三家留守居宛 一〇月二七日 包紙一 一通か 罌

同席触廻状写〔小笠原孝岐守老中任命の旨〕 同前 真田・秋田外二家留守居宛 一二月九日 包紙一 一通か 罌

同席触廻状写〔和宮、静寛院宮と称する旨〕 同前 真田・内藤外一家留守居宛 一二月九日 包紙一 一通か 罌

○慶応三年

同席触廻状写〔松平民部大輔、清水家相統の旨〕 同前 牧野・諏訪家留守居 真田・内藤外一家留守居宛 正月六日 包紙一 一通か 罌

大目付廻状〔稲葉兵部少輔、叙四品兵部大輔と改名の旨〕 (真田家外留守居宛) 正月二二日 包紙一 一通か 罌

同席触廻状写〔新帝踐祚祝儀の惣出仕の旨〕 諏訪・牧野家留守居 戸田・真田外四家留守居宛 正月一六日 包紙一 一通か 罌

同席触廻状写〔天皇崩御普請停止なれど仮普請は許可の旨〕 同前 同前宛 二月四日 包紙一 一通か 罌

同席触廻状写〔銃隊訓練発砲の解禁日〕 二月 包紙一 一通か 罌

大目付廻状写〔將軍大坂城発途京都帰還の旨、孝明天皇法事香奠献上方〕 二月一八日 包紙一 一通か 罌

大目付廻状写〔松平縫殿頭陸軍総裁任命の旨外〕
二月二十九日 包紙一 一通か 六

大目付廻状写〔將軍大坂城發途京都歸還の旨〕 三
月二日 包紙一 一通か 七

同席触廻状写〔惣出仕の節乗馬・武器携帶規定〕
諏訪・牧野家留守居 真田・内藤外一家留守居宛
三月一四日 包紙一 一通か 三

大目付廻状写〔年寄藤山に向後贈物あるべき旨〕
三月 包紙一 一通か 九

同席触廻状写〔年寄藤山、野村と改名の旨〕 諏訪
・戸沢家留守居 真田・西尾外二家留守居宛 三月一
三日 包紙一 一通か 八

同席触廻状写〔將軍宣下祝儀惣出仕の旨〕 諏訪・
牧野家留守居 戸田・真田外四家留守居宛 三月一三
日 包紙一 一通か 一三

同席触廻状写〔將軍宣下祝儀拜謁方〕 同前 同前
宛 三月一六日 包紙一 一通か 三

同席触廻状写〔増上寺參詣方〕 諏訪・戸沢家留守
居 真田・秋田外四家留守居宛 三月一八日 包紙一 一通か 九

大目付廻状写〔御馬下賜請取方、御馬献上方〕 三
月一九日 包紙一 一通か 八

同席触廻状写〔永井玄蕃頭京都にて若年寄格を命ぜ
られし旨〕 諏訪・牧野家留守居 真田・内藤外一家
留守居宛 三月二二日 包紙一 一通か 七

同席触廻状写〔同 前并京地在任中は江戸屋敷へ
の御礼方断の旨〕 同前 戸田・真田外四家留守居宛
三月二四日 包紙一 一通か 三

大目付廻状写〔昭徳院靈前への燈籠献備方、関八州
威鉄炮証文の件〕 三月二六日 包紙一 一通か 八

真田志摩書状〔同席触廻状・大目付廻状の写を進達
の旨 七五〇九二番付屬〕 御用番宛 四月一〇日 包紙一 一通か 七

大目付廻状写〔將軍大坂發途京都歸還の旨〕 四月
一二日 包紙一 一通か 三

同席触廻状写〔国喪鳴物停止解禁の旨〕 諏訪・牧野
家留守居 真田・秋田外四家留守居宛 四月一四日 包紙一 一通か 三

同席触廻状写〔昭徳院正一位太政大臣贈官位宣下の
旨〕 諏訪・柳沢家留守居 同前宛 七月二日 包紙一 一通か 六

触書写〔將軍慶喜任内大臣の祝儀惣出仕の旨〕 九
月 封筒一 一通か 六

大目付廻状写〔江戸開市は来年三月九日迄延期すべ
き旨〕 一二月二三日 包紙一 一通か 二五

大目付廻状写〔御三家・兩卿と諸大名との路頭礼節
改訂の旨〕 一二月九日 包紙一 一通か 二三

同席用廻状写〔諏訪因幡守・松平中務大輔ら申合別
紙廻達ニ付、見込の有無を回答されべき旨〕 諏訪・
松平外四家留守居 真田・小笠原外四家留守居宛 一
二月一日 包紙一 一通か 三五

真田家返答書案〔市中強盜横行ニ付取締筋見込返答
すべき旨、廻状の趣承知、見込特に無し尚仰合わされ
べき旨〕 包紙一 一通か 三三

同席用廻状写〔松平伊賀守、本多豊後守ら御門番を
命ぜられし旨〕 松平家留守居 真田・松平外三家留
守居宛 一二月一九日 包紙一 一通か 二四

触書写〔在府方石以上・交替寄合明日登城あるべき
旨〕 正月八日 包紙一 一通か 三六

畑権兵衛書状〔同席触到来ニ付写進達、御用番へ進
覽されべき旨〕 津田軋宛 一一日 包紙一 一通か 三〇

飯山本多家用人書状〔東京城にて去月二九日発布
の触廻状請取たる旨〕 本多内記・浅野平馬外一名
畑権兵衛・谷口弥右衛門外三名宛 八月一九日 包紙一 一通か 一七

勤番

御門番

大手御門番御讓書請取証文 榑原家関口郡司 真田家池村与兵衛宛 寛政二年六月一四日 包紙三 一通 か二四三

江戸町奉行申渡書〔大手御門番の節、紛入者一件不念の旨〕(村上義礼) 真田家番頭池田波江外九名宛 (寛政一〇年三月二五日) 包紙一 一通 か二七

池村与兵衛申上書〔町奉行村下の下にて別紙申渡ありしこと、他家にも同様申渡ありし旨〕 三月二五日 包紙一 一通 か二七

大手御門番御讓書請取証文 奥平家福知新左衛門真田家石川新八宛 寛政一〇年八月二日 包紙二 一通 か二四三

阿部正倫伺書・老中御書取写〔大手門番中の出火出勤は若年寄の指図のみにて可なる哉の旨〕(老中安藤信成宛) 享和元年一〇月二日 包紙一 一通 か二四五

老中御書付写〔門番大名の間不作法戒飭〕(松平信明) 大目付宛 享和元年一月 包紙一 一通 か二四五

真田幸專伺書并附札〔大手御門番中、屋敷近火の節は三丁火消差出ずして不苦哉の旨〕(老中青山忠裕宛) 文化二年六月二日 包紙一 一通 か二七〇

大手御門番御讓書請取証文 柳沢家町田多代 真田家津田善左衛門宛 文化二年八月二日 包紙二 一通 か二四五

西丸大手御門番被仰合帳請取証文 島原松平家川口長兵衛 同前宛 文化三年六月二四日 包紙三 一通 か二四六

真田幸專伺書并附札〔大手御門番中、屋敷近火の節は三丁火消差出ずして不苦哉の旨〕(老中宛) 文化四年六月二五日 包紙一 一通 か二四七

西丸御門番被仰合書并下札〔町番内代規定申合〕(真田家) (姫路酒井家宛) 文化四年六月 包紙二 一通 か二四九

大手御門番被仰合書并下札〔同 前〕(真田家) 六月 包紙一 一通 か二四七

真田幸專伺書并附札〔三丁火消差出の件〕(老中青山忠裕宛) 文化六年九月一八日 包紙二 一通 か二四七

大手御門番御讓帳請取証文 榑原家柴田定右衛門(真田家留守居宛) 文化七年六月二三日 包紙二 一通 か二四七

老中奉書〔大手御門番勤仕を命ぜられし旨〕 松平信明・牧野忠精外一名 真田幸專宛 文化九年五月六日 包紙一 一通 か二七三

老中申渡書〔服忌により大手御門番免除〕 真田幸專宛 文化一二年 包紙二 一通 か二四九

老中奉書〔西丸大手御門番、酒井河内守の代わり小笠原大膳大夫となりし旨〕 松平信明・牧野忠精外三名 真田幸專宛 文化一三年二月二日 包紙一 一通 か二七四

大手御門番被仰合書 (真田家) 二月 包紙一 一通 か二四二

真田幸專伺書并附札〔西丸門番なれど持病により出火時は嫡男を出馬させたまひし旨〕(老中青山忠裕宛) 文化一三年四月一三日 包紙三 一通 か二四六

西丸大手御門番被仰合帳請取証文 浜田松平家梅田八郎兵衛 真田家石川新八宛 文化一三年五月朔日 包紙一 一通 か二四六

真田幸專伺書并附札〔三丁火消差出の件〕(老中牧野忠精宛) 文化一三年二月二九日 包紙一 一通 か二四六

真田幸專伺書并附札〔持病ニ付出火時嫡男出馬の件〕(老中酒井忠進宛) 文化一四年七月九日 包紙一 一通 か七三

真田幸專伺書并附札〔三丁火消差出の件〕(同前宛) 文化一四年七月一日 包紙一 一通 か二七

真田幸專伺書并附札〔持病ニ付出火時嫡男出馬の件〕(老中大久保忠真宛) 文政二年八月一七日 包紙一 一通 か二〇六

真田幸專伺書并附札〔三丁火消差出の件〕(同前宛) 文政二年八月二日 包紙二 一通 か二七三

真田幸專伺書并附札〔同 前〕 (老中松平乗寬宛) (文政六年カ) 六月一六日 包紙一 一通 か二七九

真田幸專伺書并附札〔持病ニ付出火時嫡男出馬の件〕 (同前宛) 文政六年六月一七日 包紙一 一通 か二〇七

包紙〔御三家御三卿路頭礼節問合書付、一六二〇、一六三二番在中〕 文政一〇年閏六月 一点 か二六〇

真田家留守居問合書并附札〔真田家大手御門番にて出火出馬の節の田安家行列との路頭礼〕 座間百人 (田安家宛) 文政八年八月 包紙二 一通 か二六二

(田安家右筆書状)〔路頭礼問合ニ付別紙附札の通りたるべきこと、一橋・清水両家にも通達せし旨〕 望月孫兵衛 座間百人宛 八月二四日 二通 か二六三

真田家留守居問合書并附札〔出火出馬時の田安家との路頭礼〕 座間百人 (田安家宛) 三月 一通 か二六三

田安家右筆書状〔別紙問合の件、一橋・清水両家も了承したる旨〕 山口清左衛門 座間百人宛 四月一三日 一通 か二六四

真田家留守居問合書并附札〔出火出馬時の尾張家との路頭礼〕 座間百人 (尾張家宛) 三月 一通 か二六五

(成瀬家留守居書状)〔先日問合の件紙面の通りにて差障り無き旨〕 大久保某 座間百人宛 三月二二日 一通 か二六六

真田家留守居問合書并附札〔出火出馬時の紀伊家との路頭礼〕 座間百人 (紀伊家宛) 四月 一通 か二六七

真田家留守居問合書并附札〔出火出馬時の水戸家との路頭礼〕 同前 (水戸家宛) 四月 包紙一 一通 か二六八

真田家留守居問合書并附札〔出火出馬時の尾張家との路頭礼〕 同前 (尾張家宛) 七月 一通 か二六九

(成瀬家留守居書状)〔附札の通りたること、紀伊・水戸家へも通達せし旨〕 大久保某 座間百人宛 八月九日 一通 か二七〇

真田家文書目録 勤役

真田家留守居問合書并附札〔出火出馬時の水戸家との路頭礼〕 座間百人 (水戸家宛) 文政一〇年七月 包紙一 一通 か二七三

封筒 一点 か二七三

大手御門番御讓帳請取証文 榊原家蟹江十曹 (真田家留守居宛) 文政二年六月一四日 包紙二 一通 か二八六

老中申渡書〔久能山東照宮外修復御用ニ付大手御門番を免せられし旨〕 真田幸貫宛 天保四年 包紙一 一通 か二九七

真田家留守居問合書案〔出火出馬時の輪王寺との路頭礼〕 座間百人 (常照院宛) 九月 一通 か二八〇

真田家留守居伺書并附札〔儉約ニ付大手御番所詰家来の着服を改変したき旨〕 同前 (幕府目付羽太左京宛) 一二月 包紙一 一通 か二四四

羽太左京用人書状〔別紙伺書、附札済みニ付落手されたき旨〕 樋口範右衛門 座間百人宛 三月七日 一通 か二四四

真田家留守居願書案〔真田氏上京ニ付西九大手御門番免ぜられたき旨〕 (幕府宛) 一通 か二六三

その他

大目付達書〔東叡山御成跡固を勤むべき旨〕 井上利泰・伊藤忠移外二名 真田幸專宛 文化九年正月九日 包紙二 一通 か二四〇

大目付達書〔跡固の儀延引となりし旨〕 同前宛 文化九年正月九日 包紙一 一通 か二四〇

大目付達書〔大乘院門跡両山参詣ニ付老中御書付を達する旨〕 井上利泰・伊藤忠移外三名 同前宛 文化九年三月四日 包紙二 一通 か二四六

老中御書付写〔東叡山・増上寺諸門固人数書〕 大目付宛 三月 包紙一 一通 か二四六

老中御書付写〔東叡山・増上寺諸門番大名前書〕 大目付宛 一通 か二四六

真田家留守居同書并附札〔末姫・喜代姫参宮ニ付屋敷門前警衛方〕座間百人〔幕府目付羽太左京宛〕
文政一一年九月七日 包紙二 一通 か三七三

兵部省達書〔米国公使参朝ニ付道筋警衛方〕 松代藩宛 一〇月七日 一通 か一四八四

海防

老中御書取〔訓練時、甲冑使用方〕〔大久保忠真〕〔真田家宛〕 文政八年九月二日 包紙一 一通 か五三

真田幸教同書并附札〔英艦渡来警衛のため出府すれども不快ニ付帰邑したき旨〕〔老中宛〕 文久三年四月一五日 包紙一 一通 か七〇六

老中御書取〔横浜表にて浪士乱妨ニ付、神奈川奉行指示にて警衛すべき旨〕〔松平信義〕 真田幸教宛 文久三年四月一六日 包紙二 一通 か三七五

於長崎異人応接之次第写 〔元治元年〕八月一二日 一綴 か三七六

真田幸氏伺書案〔此度上京の幕命あれど真田家内海警衛中ニ付、重役を名代上京となすべきやの旨〕〔老中宛〕〔慶応三年カ〕一二月 一通 か三七三

申送り状〔内海警衛御免ニ付、諸家への使者・奉札差出方相談申入〕〔真田家留守居〕〔真田家表用人宛〕 二月一六日 一通 か三〇三

供奉

日光供奉

日光社参一件文書目録 一通 か一七五

幕府大目付達書〔日光社参ニ付御用掛の者の拝借金返納延期の旨〕 真田家留守居宛 天保一三年一二月二三日 一綴 か一七七

真田家日光供奉道中条目〔衣服・馬具・鎗印等規定〕 一通 か一七九

御書取〔岩槻・古河・宇都宮・日光の本陣・下宿箇所付、幕命の伝達〕〔真田家家老〕 禰津刑左衛門宛〔九月〕 二通 か一七五

御書取〔参詣昼休後は拍子木にて供揃をなすべき旨幕命の伝達〕 同前宛 〔一一月一七日〕 一通 か一七六

御書取〔若殿様日光社参時の人馬手配方〕〔同前宛〕 一通 か一七六

御書取〔日光御供向菅笠取揃方〕 禰津刑左衛門宛 一通 か一七六

御書取〔日光参向御供の下目付に拝借金ある旨〕御目付宛 一通 か一七二

御達書〔日光御供の者、諸道具運搬方〕〔真田家家老〕 御供御目付宛 〔天保一四年〕二月二日 一通 か一七三

御達書〔幕府触書写、日雇賃銀・一季居奉公人雇用規定〕 同前宛 二月 一通 か一七四

御書取〔日光宿坊内にての御用人側役以下の着服方を日光御供向へ申通すべき旨〕 禰津刑左衛門宛〔三月〕 一通 か一七五

御書取〔日光宿坊内にては御用人側役は旅装束のままにて御用を勤むべき旨〕 同前宛 一通 か一七六

御書取〔日光道中下座敷持は手明中間の内へ命すべき旨〕 御普請奉行宛 天保一四年三月一九日 一通 か一七七

御書取〔行列帳の記載変更の件〕 禰津刑左衛門宛 一通 か一七八

御書取〔滝野川村御人数立場、凶面の通り心得べき旨〕 同前宛 一通 か一七九

御書取〔此度は大切御用ニ付火の番殊に嚴重となすべき旨〕 同前宛 一通 か一七〇

御書取〔火の番勤方条目〕 同前宛 一通 か一七二

御書取〔道中本陣・日光宿坊の間割心得方〕 同前宛 一通 か一七三

御書取〔道中夜廻りの提灯受渡し方〕 同前宛 一通 か一七三

御書取〔道中具足櫃・荷物差札認方〕 同前宛 一通 か一七四

御書取〔賄札・蠟燭・杏草鞋札交付方并蠟燭等代金勘定書〕 同前宛 一綴 か一七五

御書取〔御供向笠桐油・看板類受渡し方并菅笠代金勘定書〕 同前宛 一綴 か一七六

御書取〔日光宿割・人馬取扱方ニ付伺の通り心得べき旨〕 高田幾太・禰津刑左衛門宛 一通 か一七七

御書取〔小役の者道中木綿紋付羽織着用方〕 同前宛 一通 か一七八

御書取〔道中看板類・駕籠人足・鍵持は自分用意たるべき旨〕 禰津刑左衛門宛 一通 か一七九

御書取〔道中馬被下方ニ付、下目付へ本馬二疋分の代料を下さる旨〕 御目付宛 一通 か一八〇

御書取〔御借人又供へは弁当袋の支給は無き旨〕 禰津刑左衛門宛 一通 か一八一

御書取〔御供足軽・通日屋等に駄馬の飼料を下さる旨〕 高田幾太・禰津刑左衛門宛 一通 か一八二

御書取〔日光御供向へ南部坂御台所にて賄札を渡す旨〕 禰津刑左衛門宛 一通 か一八三

真田凶書差図書〔岩槻・古河宿出役の下目付に手充金下さる段申渡すべき旨〕 禰津刑左衛門宛 四月九日 一通 か一八四

御書取〔御供下座見・押以下の者へ旅中太儀の賞詞を申渡すべき旨〕 御目付宛 一通 か一八五

御達書〔殿様に対し留守中辛勞との上意ありし由、御供向へ演説あるべき旨〕 同前宛 四月二〇日 一通 か一八六

御達書〔道中荷物貫目・髪結銭の件〕 御供御目付宛 四月 一通 か一八七

御達書〔下目付有賀忠左衛門に宇都宮出役を申渡すべき旨〕 御目付宛 四月六日 一通 か一八八

御書取〔御供下目付へ息合梅を下さる旨〕 禰津刑左衛門宛 一通 か一八九

真田凶書差図書〔明後日南部坂屋敷にて御先三品御手廻行列足並を仰出さる旨〕 同前宛 四月八日 一通 か一九〇

御達書〔下目付へ岩槻・古河宿への出役を申渡すべき旨〕 御目付宛 四月九日 一通 か一九一

御書取〔道中安全懐中守札頂戴方〕 禰津刑左衛門宛 一通 か一九二

御書取〔日光宿坊内の御用人側役以下の着服は猶又袴を用うべき旨〕 同前宛 一通 か一九三

御書取〔日光飯橋内は下馬・笠脱の段、御供向へ申通すべき旨〕 同前宛 一通 か一九四

御書取〔日光御供向、明日より旅装にて御用勤むるも勝手次第の旨〕 同前宛 四月二一日 一通 か一九五

御書取〔日光御供向、明日南部坂屋敷へ揃うべき旨〕 同前宛 四月二一日 一通 か一九六

御達書〔明日供揃にて発駕の旨〕 御供御目付宛 四月二一日 一通 か一九七

御達書〔休泊時の拍手木打方〕 同前宛 四月 一通 か一九八

御書取〔道中休息所・御用向人名の件、別紙の通り御供中へ申通すべき旨〕 禰津刑左衛門宛

一通 か一八九

道中休息箇所付 (幕府) (真田家宛) 四月

一通 か一八〇

道中休息所御用百姓名前書

一通 か一八二

御書取〔日光道中御供の足輕の者共へ心得方を申渡しおきたる旨〕 禰津刑左衛門宛

一通 か一八三

御書取〔日光道中に關する申立は今月一〇日迄になすべき旨〕 同前宛

一通 か一八三

御書取〔道中蠟燭・杵草鞋不用の分、代料下さる旨〕 同前宛 五月四日

一通 か一八四

御書取〔下目付有賀忠左衛門へ日光出役ニ付、馬賃錢・御賄下さる由を申渡すべき旨〕 同前宛 五月

一通 か一八五

御書取〔人馬掛荒井・池田兩名日光殘荷物取扱ニ付、下され物ある由を申渡すべき旨〕 同前宛 五月二〇日

一通 か一八六

御達書〔日光道中時出精の下目付外へ頂戴物ある由を申渡すべき旨〕 御供御目付宛 六月三日

一通 か一八七

御書取〔日光道中時出精の下目付柳沢佐忠治へ頂戴物ある由を申渡すべき旨〕 御目付宛 六月九日

一通 か一八六

御達書〔福嶋屋庄五郎へ道中日雇出精ニ付御手充金ある由申渡すべき旨〕 御供御目付宛 六月九日

一通 か一八六

○

文政度最樹院法事供奉旧記抜書 (水野家) (真田家宛) 天保四年二月二〇日

一通 か一八六

真田幸貫請書控〔將軍參詣時供奉勤むる旨〕 (大目付須田盛昭宛) 二月八日

一綴 か一七七

最樹院法事次第書

一通 か一八六

御手伝

御普請金

真田家留守居伺書并附札〔禁裏築地入用金獻上方〕 鈴木弥左衛門 (勘定奉行久世氏広宛) 天明八年一月

包紙一 一通 か一四三

真田家留守居伺書〔築地入用金員數〕 同前 (同前宛) 天明八年二月

包紙一 一通 か一四三

御普請金請取証文 井上家飯嶋右門・茂呂隆右衛門外一名 真田家矢野源八宛 寛政七年二月三日

包紙一 一通 か一四九

御普請金請取証文 同前 同前宛 寛政八年三月二日

包紙一 一通 か一四九

御普請金請取証文 同前 真田家矢野源八・三井寿一郎宛 寛政八年六月二日

包紙一 一通 か一四九

御普請金請取証文 同前 真田家三井寿一郎宛 寛政八年九月十五日

包紙一 一通 か一四三

御普請金請取証文 同前 同前宛 寛政八年二月二六日

包紙一 一通 か一四三

久能山東照宮

袋〔久能御宮其外所々御修復御用被蒙仰候一件書付、一八三四〜一八五九番在中〕 天保四年同五年

一点 か一八三

真田家留守居御聞置書〔真田家勝手向難波ニ付別紙伺書の通りにて聞濟まされたき旨〕 座間百人 (老中水野忠成宛) 九月二〇日

一通 か一八〇

真田家留守居伺書〔御宮普請金上納、三度割賦としたき旨〕 同前 (同前宛) 九月二〇日

一通 か一八〇

老中御書取〔書面内意の趣、承知の旨〕（水野忠成）（真田家宛） 一通 か一八四〇—3

真田家留守居伺書并附札〔御宮普請金上納、三度割賦としたき旨〕 座間百人（幕府勘定奉行宛カ）九月二〇日 一通 か一八四四

勘定奉行口達覚書〔御用金上納方、初納日数の遅延は以後の例となるまじき旨〕（土方勝政）（真田家宛）（九月二〇日カ） 一通 か一八五三

老中申渡書〔佐竹右京大夫・久世鎌吉、東照宮修復命ぜられたる旨〕 真田幸貫宛 天保四年 一通 か一八六二

久世・真田家留守居連名伺書并附札〔贈物進呈方〕 久世家榊原儀太夫・真田家小松儀兵衛（勘定奉行宛） 九月二十九日 一通 か一八四一

勘定奉行御書取〔御宮修復御用取扱は水野忠成の旨〕（真田家宛） 一通 か一八五二

勘定奉行御書取〔修復御用掛り勘定奉行・作事奉行・目付名前書〕（同前宛） 一通 か一八五三

勘定奉行御書取〔修復御用掛り勘定組頭以下名前書〕（同前宛） 一通 か一八五二

勘定奉行御書取〔修復御用掛り御徒目付以下名前書〕（同前宛） 一通 か一八五二

勘定奉行御書取〔修復御用掛り畳奉行以下名前書〕（同前宛） 一通 か一八五二

勘定奉行御書取〔作事方役人矢野権之進、手代より披官助へ転任せる旨〕（同前宛） 一通 か一八五三

真田家留守居伺書并附札〔修復御用掛りの真田家來人数書上方、諸家高並に准じたき旨 内慮伺い〕 座間百人（勘定奉行宛） 一〇月七日 一通 か一八六〇

賜物伺之覚〔老中・若年寄より勘定方・作事方下役迄への贈物員数〕 座間百人 一〇月一〇日 一冊 か一八四四

美

真田家留守居伺書并附札〔普請金蓮池金蔵への上納方〕 座間百人（勘定奉行宛） 二月一六日 一通 か一八七〇

久世・真田家留守居連名伺書并附札〔贈物進呈方、仙石家先例の通りにて然るべきやの旨〕 榊原儀太夫・座間百人（同前宛） 二月一六日 一通 か一八四三

諸方賜物進呈方覚書（勘定奉行）（久世・真田家宛） 一通 か一八四三

真田家留守居伺書并附札〔修復御用掛り真田家來八名書上〕 座間百人（勘定奉行宛） 二月一六日 一通 か一八四四

真田家留守居伺書并附札〔修復御用掛り真田家來の件〕（同前）（同前宛） 二月一六日 一通 か一八四四

賜物伺之覚 小松儀兵衛（同前宛） 二月二四日 一冊 か一八五三

真田家留守居伺書并附札〔普請金蓮池御金蔵への上納方〕 小松儀兵衛（同前宛）（天保五年）正月一八日 一通 か一八三三

老中申渡書〔真田家臣矢沢監物以下八名登城すべき旨〕（松平康任）（真田幸貫宛） 二月二十九日 一通 か一八三三

老中御書取〔家來病気の者は代人を出すべき旨〕（同前）（同前宛）（二月二十九日） 一通 か一八三三—2

久世・真田家留守居連名伺書并附札〔後の贈物の件〕 榊原儀太夫・座間百人 二月二十九日 一通 か一八四七

勘定奉行御書取〔上納金の納証文認方〕 土方勝政（真田家宛） 一通 か一八四六

上納金高書付案（土方勝政）（真田家宛） 午（天保五年）二月 一通 か一八四九

勘定奉行御書取〔上納金員数〕（同前）（同前宛） 午年二月 一通 か一八五〇

勘定奉行御書取〔納証文認方〕（同前）（同前宛） 一通 か一八五二

美

勘定奉行御書取〔納証文認方〕 (同前) (同前宛) 一通 一八五

拝領・献上・見舞

御馬拝領目録 (幕府) 真田弾正大弼宛 文政五年三月二日 包紙二 一通 一七〇

真田家留守居伺書〔雉子引替献上の儀ニ付内慮伺い〕 座間百人 (老中宛) 文政八年一月五日 包紙二 一通 一五三

老中御書取〔献上物引替の儀、表立伺うべき旨〕 (真田家宛) (文政八年一月二日) 一通 一五三

御用状〔献上雉子を蕎麦に引替の件外〕 北沢源次兵衛 岩下左源太・岡嶋莊藏宛 二月五日 一通 一三五

老中返札〔西丸炎上の節、御機嫌伺への返札〕 松平豊前守 真田信濃守宛 文久三年六月一八日 包紙二 一通 一七六

老中返札〔年頭祝儀太刀・馬代献上への返札〕 井上河内守 同前宛 文久四年正月一日 包紙一 一通 一四三

老中返札〔寒中御機嫌伺への返札〕 牧野備前守 同前宛 元治元年二月二三日 一通 一七四

老中返札〔八朔祝儀献上物への返札〕 松平伯耆守 同前宛 慶応元年八月四日 包紙一 一通 一八〇

老中返札〔年頭祝儀献上物への返札〕 水野和泉守 同前宛 慶応二年正月一日 包紙一 一通 一三五

新帝踐祚祝儀飛札例文 (中津奥平家) 一通 一六二

公儀拜借金請取証文〔松代城外焼失ニ付〕 真田伊豆守 細田弥三郎・中川吉左衛門外二名宛 享保二年七月 包紙三 一通 一六三

諸大名金子配分書 一通 一八六

役儀

被仰出書〔真田幸貫老中就任ニ付公儀・諸家に対し礼節を重んずべき旨〕 (真田家家老) (真田家中宛) (天保一二年)七月 一通 一八九

御袖裏覚書 (真田幸貫) 寅(天保一三年)正月朔日 小折本 一冊 一四七

御袖裏覚書 (同前) 正月六日 小折本 一冊 一四六

御袖裏覚書 (同前) 正月七日 小折本 一冊 一四七

御袖裏覚書 (同前) 正月八日 小折本 一冊 一四六

御袖裏覚書 (同前) 正月九日 小折本 一冊 一四六

御袖裏覚書 (同前) 正月一〇日 小折本 一冊 一四六

御袖裏覚書 (同前) 正月一日 小折本 一冊 一四四

御袖裏覚書 (同前) 正月二日 小折本 一冊 一四四

御袖裏覚書 (同前) 正月三日朝 小折本 一冊 一四四

御袖裏覚書 (同前) 正月一三日 小折本 一冊 一四四

御袖裏覚書 (同前) 正月一五日 小折本 一冊 一四四

御袖裏覚書 (同前) 正月一六日 小折本 一冊 一四六

御袖裏覚書 (同前) 正月一七日 小折本 一冊 一四七

御袖裏覚書 (同前) 正月一八日 小折本 一冊 一四六

御袖裏覚書 (同前) 正月一九日 小折本 一冊 一四六

御袖裏覚書 (同前) 正月二〇日 小折本 一冊 一四六

御袖裏覚書 (同前) 正月二一日 小折本 一冊 一四六

御袖裏覚書 (同前) 正月二二日 小折本 一冊 一四六

御袖裏覚書 (同前) 正月二三日 小折本 一冊 か一四三
 御袖裏覚書 (同前) 正月二四日 小折本 一冊 か一四四
 御袖裏覚書 (同前) 正月二五日 小折本 一冊 か一四五
 御袖裏覚書 (同前) 正月二九日 小折本 一冊 か一四六
 御袖裏覚書 (同前) 正月晦日 小折本 一冊 か一四七
 御袖裏覚書 (同前) 三月二日 小折本 一冊 か一四八
 御袖裏覚書 (同前) 三月二七日 小折本 一冊 か一四九
 御袖裏覚書 (同前) 三月一八日 小折本 一冊 か一五〇
 御袖裏覚書 (同前) 三月二六日 小折本 一冊 か一五一
 御袖裏覚書〔文恭院廟名代参詣〕 (同前) 小折本 一冊 か一五二

十藩触頭

松本戸田家人用書状〔真田幸民、朝廷より信濃国触頭を命ぜられし旨、承知返報〕 稲村左近右衛門・西郷新兵衛外七名 谷口弥右衛門・山中鹿渡外二名宛 (明治元年)二月十七日 包紙一 一通 か一
 松本戸田家人用書状〔京都より伝達の書付の趣承知の旨〕 同前 (明治元年)二月十七日 包紙一 一通 か一
 高嶋諏訪家人用書状〔真田幸民信州触頭任命の旨、承知返報〕 両角文右衛門・鶴飼伝右衛門外二名 同前宛 (明治元年)二月八日 包紙一 一通 か一
 高嶋諏訪家人用書状〔京都より伝達の趣承知の旨〕 同前 (明治元年)二月八日 包紙一 一通 か一
 高遠内藤家人用書状〔信州触頭任命の件〕 神谷真左衛門・竹田七郎右衛門外一名 同前宛 二月一八日 包紙一 一通 か一

高遠内藤家人用書状〔京都より伝達の件〕 同前 同前宛 二月一八日 包紙一 一通 か一
 上田藤井家人用書状〔信州触頭任命の件〕 中根次郎右衛門・藤井司外三名 同前宛 二月十九日 包紙一 一通 か一
 上田藤井家人用書状〔京都より伝達の件〕 同前 同前宛 二月十九日 包紙一 一通 か一
 信州触頭御欲諸家使者入来留書 (表用人カ) (明治元年)二月十九日―二十九日 二綴 か三
 (飯田堀家家老書状)〔信州触頭任命の件〕 安富勘右衛門 鎌原伊野右衛門・大熊衛士宛 (明治元年)三月一日 一通 か三
 真田家人用書状案〔真田幸民信州触頭任命に対する祝詞への返礼状〕 畑権兵衛・宮下主鈴外一名 仙石家人宛 一通 か一
 表用人同書〔信州触頭・大隊旗拝領ニ付諸家祝詞への返礼の件〕 (明治元年)二月二三日 三通 か三

甲府城代

真田家人用書状〔真田幸民、朝廷より甲府城代命ぜられし旨〕 畑権兵衛・谷口弥右衛門外三名 本多・堀外一家用宛 (明治元年)七月八日 包紙一 一通 か一
 飯山本多家人用書状〔廻状返却の旨〕 本多内記・葉若治部左衛門 畑権兵衛・谷口弥右衛門宛 七月九日 一通 か一
 真田家人用書状〔真田幸民甲府城代免ぜられし旨〕 畑権兵衛・谷口弥右衛門外二名 本多・堀外一家用宛 (明治元年)七月一八日 包紙一 一通 か一
 被仰出書写〔真田幸民、越後進撃のため甲府城代免ぜられし旨〕 (朝廷) 真田幸民宛 一通 か一

口上書写〔真田幸民の尽力に満足の旨〕（朝廷）
（真田幸民宛） 一通 か 五六
| 3

飯山本多家用人書状〔廻状返却の旨〕 本多内記
・葉若治部左衛門外一名 畑権兵衛・谷口弥右衛門宛
七月二十九日 一通 か 五六
| 4

真田家用人廻状〔落合宿社家小野丹波を総督府より
探索の旨〕〔谷口弥右衛門・窪田慎六外二名 本多・
堀家用人宛〕（明治元年）三月一〇日 包紙一
一通 か 六

飯山本多家用人書状〔右廻状返却の旨〕 中嶋森
之助・本多内記外二名宛 谷口弥右衛門・山中鹿渡外
二名宛（明治元年）三月一〇日 包紙一
一通 か 七

須坂堀家用人書状〔真田家廻状、本多家へ廻達せし
旨〕 駒沢勘左衛門 同前宛 三月二日 包紙一
一通 か 六

御沙汰書〔内藤志摩守家来四人、市橋下総守へ御預
替の旨〕 行政官 真田信濃守宛 三月
一通 か 三五〇

御沙汰書〔真田家御預りの内藤家臣大原秋次、御構
無きニ付帰藩せしむべき旨〕 行政官（真田幸民宛）
三月 一通 か 三五二

道中先触写〔戊辰戦争、北越方面派兵関係〕 辰
（明治元年）四月 一通 か 四六

大隊旗拝領祝儀諸家入来留書（表用人）（明治
元年）四月二十九日―閏四月一日 一通 か 一三〇

東山道総督府印鑑 六通 か 七元

刻付急御用廻状写〔榎本金次郎ら鑑船にて脱走の
旨〕 鎮守府弁事 真田・津軽外二〇家留守居宛
（明治元年）八月 包紙一
一通 か 五〇

表用人伺書〔下筋派兵ニ付諏訪家よりの礼物への返
礼の件〕（明治元年）二月二三日 一通 か 一三三

諏訪家礼物代料勘定書 表用人 二月二三日 一通 か 一三三

表用人申上書〔飯山城援兵ニ付本多家よりの礼物へ
の返礼の件〕（明治元年）二月二三日 一通 か 一三五

鎌原伊野右衛門差図書〔別紙伺の趣承知、松本・飯
山等の使者への被下物は見合わすべき旨〕 表用人宛
（明治二年カ）三月一三日 一通 か 一三五

堀新九郎披露状〔年頭祝詞〕 竹内晋平・伊藤環宛
正月二日 一通 か 四七

大法院泰猷披露状〔同前〕 真田家用人宛 正月五
日 一通 か 八四

大法院泰猷書状〔用人宛年頭祝詞〕 畑権兵衛・津
田転宛 正月五日 一通 か 八四

仙石久利書状〔暑中見舞〕 真田信濃守宛 六月二
日 一通 か 一七五

大沢甚之丞書状〔中元見舞への返礼状〕 石川新八
・畑権兵衛宛 七月二日 一通 か 一三五